

礪 川 地 区



礪川地区町会連合会

● 昭和53年4月結成

構成町会 24町会	平成26年8月現在
初音町町会	富坂一丁目町会
富坂二丁目町会	春日一・二丁目春睦会
春日町三丁目町会	表町町会
小石川表町会	柳町町会
柳町中央町会	柳町三和会
八千代町町会	戸崎町町会
南戸崎町会	指ヶ谷町会
白山指ヶ谷町会	白山町会
京華通り自治会	春日一丁目仲睦会
春日一丁目大門町会	道和町会
後楽町会	第二後楽園アパート
春日礪川町会	本郷一丁目アパート自治会

歴代会長

初代	酒井 瀧蔵
二代	橘高 智雄
三代	松永 秀三
四代	田代力太郎
五代	鷹田 芳郎

地区町会連合会のあゆみ

昭和20年後半から30年初めまでに文京区礪川出張所管轄区域に25の自治会・町会が結成され礪川地区町会連合会「礪川町連」が組織されました。当初礪川町連は25の町会を地域ごとに10のブロックに分けブロックの代表町会長が一年ごとに地区町連の会長を務め当番制で運営されていました。昭和53年礪川地区町会連合会として会長、副会長、会計、監事、幹事を選出し運営に至りました。

礪川地区とは神田川・武蔵丘陵白山台地・小石川馬場脇を流れる東大下水に囲まれ、中心に小石川大下水(千川)が流れる周辺一帯の地域を総称します。区域の中に水戸徳川家上屋敷(小石川後楽園)小石川菜園(小石川植物園)伝通院・こんにやく閻魔源覚寺等旧跡・古刹が多数見られます。

礪川地区は縄文時代(4,500年前)武蔵丘陵が海に崩れ落ちる沿岸であり、急な崖や浸食された海岸線の入り混む台地と海に流れ込む細流とで成り立っていたと考えられます。

明治10年大森貝塚の発見者である動物学者モース博士の日本における2番目の貝

塚発見場所が小石川植物園本館裏手及び薬草園南側崖面でした。海に流れ込む細流は砂や小石が多く見られ海岸線が引き陸地となり、その丘陵と谷筋一帯の集落を小石川村と呼ぶようになりました。寛政の改革以来出版物の規制を受け衰退した狂歌川柳復活に貢献した小石川村在住の作家文日堂礪川(小石川の漢語表現)に地名の由来が見られます。

時代も下り小石川に生を受けた小説家永井荷風が大正13年関東大震災後大田蜀山人の墓に詣で小石川を散策する随筆『礪川徜徉記』にも礪川の字を当てております。

江戸時代の礪川地区は多くの大名屋敷と寺社仏閣市井の町屋に囲まれた朱引外の静かな山の手です。江戸切絵図から見ると大名屋敷は徳川水戸家、安藤飛騨守、松平豊後守等中屋敷、下屋敷、旗本屋敷が多く見られます。本郷丸山から出火した明暦3年の振袖火事以降江戸市街の都市整備が進み火除地が設けられました。市街地に在る多くの寺院が小石川・本郷・谷中に移されました。礪川地区も明治時代近代化が進み教育機関が多数創設されました。明治6年礪

川尋常小学校が設立したのを始め柳町小学校、指ヶ谷小学校が設立、昭和22年文京区立第三中学校が旧三井邸跡地に創設。公立幼稚園として柳町幼稚園、後楽幼稚園があります。特に柳町幼稚園は平成18年「柳町こどもの森」と名称を変え幼稚園・保育園一元化施設として注目されています。私立学校は中央大学理工学部、付属高等学校、筑波大付属大塚特別支援学校、都立文京盲学校、明治25年創設の淑徳学園（現在名淑徳SC）、明治20年～昭和7年までの跡見学園小石川柳町校舎、私立幼稚園として福寿幼稚園・明照幼稚園があり文の京の名に恥じない環境です。地区の真ん中を流れる千川は昭和9年暗渠化され都道千川通りになりましたが河川の時代には多くの橋が掛っておりました。上流から戸崎橋・一本橋・掃除橋・千川橋・柳橋・嫁入り橋・丸太橋と続きます。こんにやくエンマ源覚寺門前では毎月6日・16日・26日の縁日には夜店が数10件並び大勢の人々で賑わいました。昭和53年礫川地区町連の運営が始まり連合会では事業・研修会・見学会・総会・新年会及び定例会・役員会を開催、文京区青少年対策礫川地区委員会の活動や礫川町連連合事業への支援、成人式・新入学・敬老の日のお祝・緑の日・日本赤十字募金・歳末たすけあいの斡旋等をサポートしております。

礫川地区町連の事業として「文京朝顔・ほおずき市」が有名です。平成26年に29回を数えたこの事業は区民部経済課の指導事業としてスタートしました。入谷鬼子母神、浅草四万六千日での朝顔市、ほおずき市を伝通院、こんにやくえんま源覚寺境内にて一度で開く贅沢な事業です。無量山伝通院から善光寺坂を下り源覚寺迄の道筋は春夏秋冬今日でも江戸の風の香りに包まれ

るパワースポットです。

文京朝顔・ほおずき市は朝顔、ほおずきの販売を柱に地域活性化を目的として毎年7月中旬に開催しております。地区の町会、商店会を中核として立ち上げた文京朝顔・ほおずき市実行委員会及び文京区観光協会を主催団体とし文京区・文京区産連・町会連合会・区商連・商工会議所文京支部・東京観光財団に後援を頂き伝通院、澤蔵司稲荷、善光寺、源覚寺各寺院、跡見学園女子大学、尚美ミュージックカレッジ専門学校、小石川郵便局、富坂警察署、小石川消防署、消防団、山梨県甲州市、群馬県下仁田町、小石川福祉作業所、文京ニュージューランド友好協会、文京三中園芸部等地元のあらゆる組織団体のご協力を頂き小石川夏の風物詩となるまでに育ちました。善光寺坂を繋ぐスタンプラリー、文京区との友好都市による物産店等週末に設定した事業のため駆け回る子供達の歓声で賑わいました。平成20年転機が突然に興りました。

事業を見られる形から見せる形へ、新たな戦略としてダイバーシティ・マネジメントを進め事業のイノベーションに取り組みました。

祭りとしては尚美ミュージックカレッジの学生によるライブ、ヘブンアーティストによるゲリラパフォーマンス、跡見学園女子大学ゼミ生による模擬店、手作りコンニャクの体験コーナー等来場者が参加できる事業を増やしました。

朝顔の販売に関しては販売と同時に変化朝顔の栽培と育成に取り組みました。朝顔は奈良時代薬草として中国より日本に渡来しその花の鮮やかさと朝咲いて昼にはつぼむ潔さから江戸時代人々の心を掴む人気ある園芸草花です。平成22年第25回より新たな事業として小石川善光寺境内にて変化

朝顔の栽培展示を始めました。変化朝顔は文化文政時代江戸浅草蔵前の牛頭大王で開かれた朝顔の花合わせに、変異した朝顔が出品され注目を浴び変化朝顔として江戸・京大阪で広まりました。また嘉永5年小石川牛天神別当龍門寺花合わせに杏葉館(北町奉行鍋島直孝)の名で出品した大輪朝顔は変化朝顔の新たな遺伝子として全国に広まりました。文京朝顔・ほおずき市実行委員会は来場者に鑑賞して頂くと共に研究し育てて頂ける同好者を募集し里親制度を立上げ、多くの方々の参加を頂きました。

地区町会では盆踊り・ラジオ体操会・餅



盆踊り



盆踊り



ラジオ体操会



ラジオ体操会



防火訓練

つき・防災防犯パトロール・成人・入学・敬老の祝・赤十字募金・歳末助け合い運動等積極的に取り組み効果を上げております。また関連団体である文京区青少年対策礪川地区委員会事業に対しても全面的に協力を惜しみません。伝通院山門前をスタートし春日通り、千川通り、吹上坂を上り春日通りに戻る一周3キロを会場とした礪川マラソンは会を重ねる毎に参加希望者が伸び東京都心部での有力な市民マラソンとして注目を浴びております。

平成23年3月に発生した東日本大震災は礪川地区に於いても物心共に被害を被りました。東京での震度5弱の揺れとその後数ヶ月続いた余震は自然災害の恐ろしさを身をもって体験することとなりました。

平成21年避難所運営協議会が礪川地区内に礪川小学校避難所運営協議会・柳町小学校避難所運営協議会・指ヶ谷小学校避難所運営協議会・第三中学校避難所運営協議会の四か所に設立され学校管理責任者及び区職員との連携で震度5強の災害に対処し発災初期の活動体制の組織化を図りました。

平成23年東日本大震災遭遇時に震度5弱にも拘らず地域住民の方々、企業従業員の

方々が多数避難所に身を寄せ、多くの帰宅難民の保護、救済に当たりました。このような状況を踏まえ平成23年11月地域防災計画の修正が行われ臨時災害対策本部の設置と指示により可能な範囲で避難所の開設と運営に対する協力を行うことになりました。

平成25年8月には大原地区との共同にて礪川地域活動センター管内地域にて首都直下型大規模地震発災対応訓練・災害対策本部運営訓練・発災型地震実働訓練等文京区総合防災訓練に参加致しました。

礪川地区町会連合会では設立以来35年町民の住みよい環境と、安心で安全な町を維持する事が目的であると常に考えております。

防災訓練、防犯・交通安全運動、地域浄化、青少年健全育成、文化伝統の維持育成、福利厚生等活発に進めて参ります。

また、町の行事に関しては近隣町会連合にて大規模な事業やイベントを行うための資金やスタッフの相談、企画運営会議室の提供にも積極的に関与して参ります。平成27年3月に完成する新しい礪川地域活動センターを地区町連の中核として今後の35年先を見据えて参ります。



朝顔・ほおずき市



昭和38年2月、白山下都電停留所付近

■ 歴代会長

初代	柿沼 官市 (昭和25年～)	四代	島山 多平 (昭和41年～)	七代	田代力太郎 (昭和62年～)
二代	井村芳之介 (昭和30年～)	五代	吉岡 長造 (昭和48年～)	八代	金子 實 (平成19年～)
三代	吉里 貞雄 (昭和34年～)	六代	前原 政雄 (昭和49年～)	九代	前原 基志 (平成26年～)

町会名のあゆみ

江戸の地誌や社寺、名所の来歴を記す書「江戸砂子」によりますと「小石川の内、寛永元年(1624年)こんにやくゑんま、で名高い源覚寺が開かれ、門前町ができ、明治2年、源覚寺門前町と下富坂西側を併せて、初音町とした。」とあります。

又「白山御殿(元小石川植物園)のあたりは、ほととぎすの名所で、初音の里といわれたのでこれから町名がとられたのであろう。」とあります。当時初音町内の中央を、千川が流れて後年、東部、中部、西部、と区別されましたが中部には、源覚寺、こんにやくゑんまがあり毎月六の日「6日、16日、26日」に縁日が開かれ、東部と西部の両岸を「嫁入橋」「柳橋」が結び、両岸の商店と多くの夜店が並び、たいへん賑わったものでした。源覚寺の境内では、丸太で小屋を組み、いろいろの見世物が出て、大人も子供も楽しんだ思い出が多くあります。

しかし昭和の初期に交通量の増加と大雨による千川の洪水被害のため、暗渠になり、東部が、小石川一丁目、中部と西部が、小石川二丁目、と分かれてましたが、その時の商店も「えんま商盛会」として続いており、

昔からの絆が新しい町の中でもいまだに根付いております。

「大正14年4月1日」「東京市社会教育課」調査「小石川区内の町会名と会員数」「初音町 200」とあります。これは世帯数と思われませんが、「現在は1500世帯以上」、今後も「マンション」の増加と共に会員も増えると思われ当時の面影は年々薄くなり、時代の流れを感じる次第です。

初音町町会は規約の通り会員相互の親睦を図り、町内の福利、文化の向上を目的として活動しており、毎月第1土曜日、町会役員と婦人部合同の定例会を開催し、当月行事の打ち合せをし春・秋の交通安全運動、防犯・防災訓練の参加、成人・敬老の祝品、区報等の配布を行っています。

7月は5町会合同のラジオ体操

8月は朝顔ほおずき市 源覚寺境内で販売、神奈川県大山神社山荘一泊研修

9月 白山神社祭礼、盆踊り大会

10、11月 赤い羽根と歳末共同募金

12月 防災訓練と餅つき大会、歳末警戒パトロール6日間、源覚寺の除夜の鐘の協力、手伝いその他、資源の回収等の活動をしております。



平成23年9月21日 白山神社祭礼



平成24年12月11日 防災訓練と餅つき大会

富坂一丁目町会

● 昭和25年結成

■ 歴代会長

- 初代 有瀧富寿丸
(昭和25年戦後睦会発足、昭和31年町会と改める)
- | | |
|-------------------|---------------------|
| 二代 山本富美子 (昭和34年～) | 七代 青木 勇 (平成2年～) |
| 三代 小林 為次 (昭和36年～) | 八代 長谷川 武 (平成8年～) |
| 四代 岩谷 伸 (昭和48年～) | 九代 仁平 敬一 (平成11年～) |
| 五代 吉本 久雄 (昭和51年～) | 十代 宮崎 正男 (平成23年～) |
| 六代 奥山 吾介 (昭和56年～) | 会長代行 高橋 将昭 (平成26年～) |

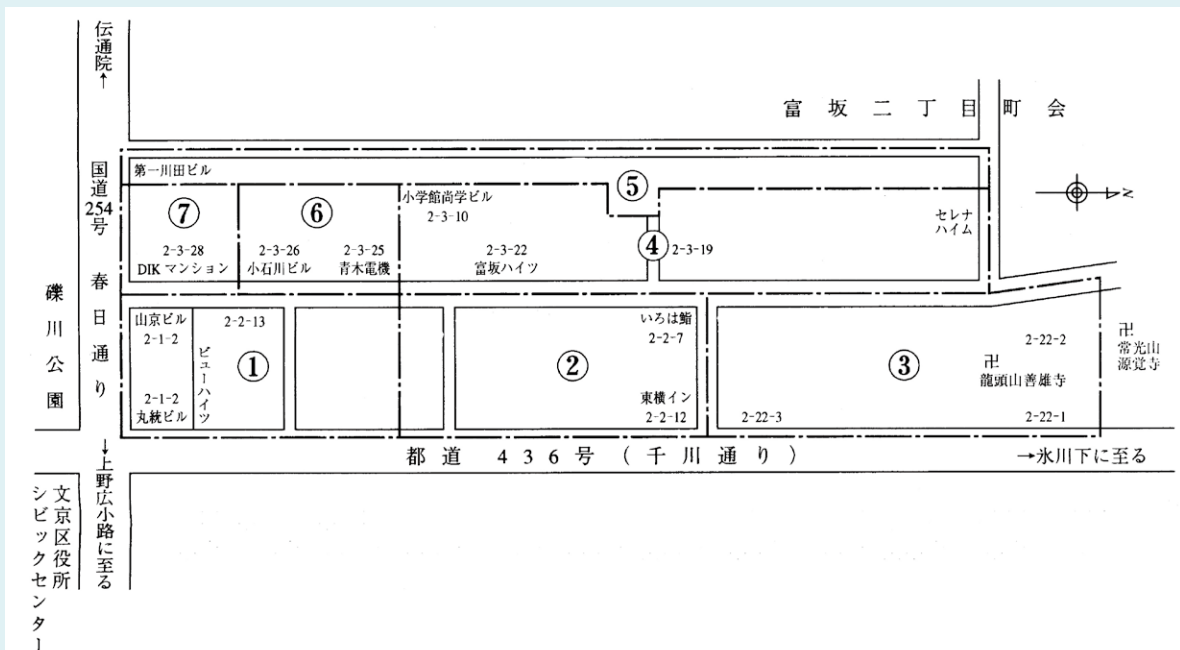


町会のあゆみ

その昔豊かな水に恵まれ静かな町並は明治富国強兵の国策として陸軍砲兵工廠が創立されてにわかに町家の数も増し文字通り商家が立並び、戦前には酒屋2、質屋2、湯屋、駄菓子屋、米屋、本屋、床屋、タバコ屋、魚屋、鍛冶屋、時計屋、薬局、花屋、豆腐屋等生活に必要なものは一応この町の中で用がたりる程の賑わいでした。今次の大戦により焼土と化しその中から力強く立上り街づくりが芽生え、戦後は図書の普及にともない書籍関係の職業が商家に変わり多く

なっています。戦前の下富坂町一部及び餌差町の両町を合併して昭和25年4月富坂一丁目睦会を結成、次いで昭和31年4月富坂一丁目町会として発足しました。

そして現在は、戸建ての家も少なくなり、マンション・商業ビルへと様変わりしてきました。近くには4路線の地下鉄駅があります。この町会を行き交う方も多くいらっしゃいます。小さな町会です。互いに助け合って「綺麗から、安全な町へ」と願って生活しております。



富坂一丁目町会区域別区分画図

■ 歴代会長

初代 富岡 親（昭和24年～ 睦会発足）
二代 福田平次郎（昭和26年～）
三代 富岡 豊太（昭和28年～）
四代 福田平次郎（昭和29年～）
五代 高木英三郎（昭和30年～）
六代 白石 瑛（昭和31年～ 文京区議会議員）
睦会を町会に改称
七代 内田 好保（昭和41年～）

八代 木村孝三郎（昭和44年～）
九代 今井 寅吉（昭和48年～）
十代 木村孝三郎（昭和50年～ 文京区議会議員）
十一代 鈴木 六郎（昭和58年～）
十二代 松永 秀三（昭和62年～）
十三代 小山内 實（平成16年～）
十四代 大友 和夫（平成21年～）
十五代 萬立 幹夫（平成26年～ 文京区議会議員）

町会のあゆみ

明治42年に当時の市会議員であった松井金吾先生の働きによって「上中西富坂町会」として発足する。昭和20年頃に「睦会」と名称を変えたが、昭和24年に「富坂二丁目町会」と改名し、現在に至る。

当町会は文京区のほぼ中央の小石川地区の高台に立地して、近くには歴史ある学校群がある。交通面においてもメトロ丸の内線・南北線の「後樂園」、都営地下鉄三田線・大江戸線「春日」の駅も近く徒歩5分圏内であり、東京、銀座、池袋、新宿、上野に行くのも大変至便である。駅から近いにも拘わらず静かで、近隣の和は深く、高台で住み良い町と言われている。

当町会は毎年いろいろのイベントやボランティア活動を積極的に実施しています。

- リサイクル活動 資源分別回収（新聞・ダンボール・古紙・瓶・缶）を行っています。
- 防犯・防火活動 地域の安全を守るため警察署や消防署主催の講習に参加しています。特に救命活動講習には毎回参加し、AED（自動体外式除細動器）の取扱い資格を取得しています。（女性部員）
- 防災活動 大地震などの災害に備えて、隣接4町会合同による避難所運営会議による「避難訓練」に参加しています。
- 秋の子どもまつり ●敬老祝品の配布
- 春秋の交通安全週間の参加 ●町内旅行
- 年末夜警の実施 ●サマーフェスティバル運営の参加 ●町内清掃 ●礪川マラソン大会運営の参加 ●文京朝顔・ほおずき市運営の参加 他



町会役員



子ども神輿



防災訓練

■ 歴代会長

初代	山中 喜祐 (昭和32年～)
二代	佐藤 松男 (昭和54年～)
三代	古口 晴彦 (昭和60年～)
四代	鈴木 謙三 (昭和62年～)
五代	中藪 康夫 (平成元年～)
六代	谷川 肇 (平成17年～)

町会のあゆみ

春日町一・二丁目春睦会は、現在の本郷一丁目、後楽一丁目の内、その名の示す通り、旧小石川区春日町一・二丁目にあたる地域を占める町会です。この町は、由緒ある歴史に富む文京区の中でも、やや小粒ながらユニークな歴史と伝統を持つ町会であります。「春日」の名から明らかな通り、この地域は、徳川三代将軍家光の乳母で大奥最高の権勢を振るった春日の局の旧領地で、局は将軍からこの土地を拝領し、ここに町屋を造りました。現在この町の中央に位する稲荷神社（出世稲荷神社）は、局の土地28坪と小栗猶之丞よりの借地27坪を併せて、局が寄進したということが「御府内備考」に記録されてあります。現在この神社は町会の氏子、総代が一丸となってこれを護持し町の守り神となっており、境内は区の公園として活用されてお

す。この由緒ある「春日」の名が戦後の町名変更により消失したことは残念ですが、本町会の名称「春睦会」にはその名を留め、現住者一同和親協同し、明るく、楽しく、平和な町造りに挺身しています。

さて現在の町会は昭和32年4月に結成以来55年になります。会員は東京電力、東京ドームを含む約35世帯の方々と5つのマンションが加入しています。役員は会長をはじめ18名の方々が各々の役割を担い活動内容は区報及び新聞の配布、花見会、稲荷神社例大祭、初午修祓式、旅行会、餅つき会等町会規約に則り活動しています。しかしながら現在少子高齢化問題等課題をかかえていますが我々町会は出会いを大切にし明るく、楽しい町造りにつとめていきたいとおもっています。



稲荷神社例大祭の神輿



例大祭の緑日風景

■ 歴代会長

初代 萩原 正平 (昭和22年～)
二代 梅津久四郎 (昭和24年～)
三代 横田銀太郎 (昭和29年～)
四代 東條亀之助 (昭和31年～)
五代 中川 好富 (昭和33年～)
六代 高嶋富太郎 (昭和35年～)
七代 能勢 熊 (昭和37年～)

八代 森 貞次 (昭和40年～)
九代 吉崎憲太郎 (昭和51年～)
十代 及川 養吉 (昭和53年～)
十一代 松田 剛治 (昭和63年～)
十二代 諏訪 茂一 (平成13年～)
十三代 杉田 明治 (平成20年～)

町会のあゆみ

住所は「下富坂町」「小石川餌差町」とその名を替え、町会名はその都度変更されましたが、昭和15年4月の千川改修道路拡張整備を機会にその時の住所の「春日町三丁目町会」とされ、昭和39年の「小石川一丁目」への新住所表示後もそのまま使われています。

昭和42年の白山通り道路拡張工事から、地下鉄各線の工事そして最近の大江戸線・三田線連絡工事などまちはいつも工事現場と化し、商業への設備投資が進まず、山手線の内側で地下鉄4線が交差するという利便性がありながらも土地の公示価格が低

く、八王子や武蔵野駅前に比べても下回っています。

なんとか文京区の都市核にふさわしいまちにと、平成11年度よりシビックセンター周辺のまちづくりを考える懇談会が区の主催で行われ、それをきっかけに機運が高まり、平成13年9月に「まちづくり協議会」、平成14年11月に「再開発準備組合」が設立され、平成24年3月に東京都より組合設立認可を受け、同4月に「春日・後楽園駅前地区市街地再開発組合」が船出をしました。

この再開発は小さな権利者が集まり自主的に始まった殆ど例のない開発です。防災



町会現況写真 (©(株)エイエス)

拠点のまち・文の京にふさわしい知のまち・交通結節点をより繋ぎバリアフリー化し利便性の高いまち・都市核にふさわしい賑いのあるまち、このようなビジョンでまちづくりを進め、「胸をはって子供や孫たちに継承できるまち」を目標に、平成29年度の大方向の完成を目指して町会一同で努力しています。

■ 歴代会長

初代	鱈淵高次郎（昭和22年～）	四代	酒井 滝蔵（昭和32年～）	七代	小川 弘（平成15年～）
二代	浪越徳次郎（昭和24年～）	五代	小川 健二（昭和62年～）	八代	清水恭一郎（平成21年～）
三代	山内 信孝（昭和31年～）	六代	田中 四郎（平成3年～）	九代	森田 晴輝（平成24年～）

町会のおゆみ

表町町会の特徴的な行事が『一日だけの文化祭』です。回を重ねるごとに、作品の数も種類も、出品者・出演者も広がりを見せています。展示コーナーには絵画（油彩・水彩・パステル画ほか）、絵手紙、手芸、書道、押し花絵、工作、著作、ガラス工芸、寄せ植えなどさまざまなジャンルの作品が並びます。6歳から97歳と幅広い年齢層からの出品も特徴です。音楽コーナーでは、プロのヴァイオリニストの方の参加や、レーザー光線を使った音楽の披露などもあり、格調高いライブを行っています。また、防

災コーナーを設け、防災への取組を報告したり、個別の相談や質問にも答えています。

表町町会は、町会員が皆安心して暮らせるよう、防災に力を入れています。新年会、バスハイク、ラジオ体操、祭礼、文化祭等、どんな行事にも「防災」のキーワードを絡めるようにして、常にお互いが助け合える関係を作り上げられるよう、親睦をはかるお手伝いをしています。年間を通じ様々な事業を行っておりますが、これらを実践できるのも町内に多数ある環境の整った寺社・学校法人のご協力のおかげです。



絵画部門：高校生の作品も



工作では6歳児も参加



いつもライブは大盛り上がり



防災コーナーも設けました

小石川表町会

● 昭和31年10月結成

■ 歴代会長

初代 松苗半次郎（昭和31年～
※昭和41年～昭和43年 秋庭由平会長代行）
二代 浅野 二郎（昭和44年～）
三代 秋庭 由平（昭和49年～）

四代 戸田 源次（昭和61年～）
※平成10年～平成11年 加瀬順一 会長代行）
五代 加瀬 順一（平成11年～）
六代 朱宮 正剛（平成23年～）

町会のあゆみ

■ 分離独立の経緯

小石川表町は江戸時代からの古い町で、地形的に伝通院周辺の台地と崖下の上下にわかれ、台地上に住む人々と低地に住み印刷、製本工場で働く人々とは町会の運営に対立することが多く、当時低地を代表して松苗副会長以下当時の幹部が相談を重ねた結果「表町町会」より分離独立して小石川の名前を冠して「小石川表町会」が誕生した。

■ 戸田会長時代

昭和61年1月に会員名簿が作成され、会員222名が登録されている。婦人部の活動としてダンボール、空き缶などの収集が始まりリサイクル運動の先駆けとなった。平成3年頃、町内の消毒作業を行っていたが、健康に害があることがわかり平成12年に中止された。平成9年4月22日に町会創立40周年式典、祝賀会がサテライトホテルで開催された。平成10年3月に40周年記念会員名簿が発行され、会員139名が登録されている。

■ 加瀬会長時代

平成13年11月23日に町会旗新調披露会がホテルダイエーで盛大に挙行された。平成17年3月小石川ザ・レジデンスの建設で、町会域の一部が南戸崎町会に編入され、町会域が東西に分断した。レクリエーション、白山神社祭礼、春秋の交通安全運動、地域防災活動、餅つき大会、年末夜警等が町会の周年行事として確立され、郷土史と町会の位置付け、後継者育成に力を注いだ。平成20年11月1日に創立50周年記念誌が発行され、会員124名（マンションは1件とする）が登録されている。平成21年8月14日に青年部（若葉会）が発足し、町会活動の推進

役を果たしている。

■ 朱宮会長時代

女性役員を配し、若い世代への継承を図る。平成24年度会員は220人（内一般121、マンション99）。

■ 今後の課題

マンション化が進み、下町の情緒も人情も希薄になりつつある。多様に変化する地域や社会環境の中で、柔軟に対応できる町組織をつくりあげねばならない。町会の役割は、青少年の育成、防災、安全安心で住みよい町づくり、お年寄り対策等、行政等との連携がますます重要になっている。



昭和33年6月、入魂式の様子

■ 歴代会長

- 初代 周治松次郎（昭和24年～）
- 二代 山辺 孝二（昭和25年～）
- 三代 中村栄次郎（昭和27年～）
- 四代 鷹田 芳（昭和33年～）
- 五代 鷹田 芳郎（平成9年～）

町会のあゆみ

太平洋戦争の敗戦により、米国GHQの指令で戦時中の町会は、解体され柳町町会も、三つに分割され（現在の柳町町会・柳町中央町会・柳町三和会）私達の住む地区は、簸川神社の氏子の親睦団体、柳親会として生まれ変わりました。

その後、昭和27年に、「元柳町会」、昭和38年8月1日住居表示が改正され「柳町」から「小石川」へ、昭和54年には、町会名は昔のままの「柳町町会」へと変わりました。

当時、この地域は出版・印刷・製本の町として、工業・商業とも活況を呈しておりました。マスコミにも取り上げられました。平成に入り、工業も商業も合理化の名のもとに大型化し、柳町町会も、交通至便の為住宅地と変わってきました。マンションが林立し、町民の過半数がマンションの住民

で占められるようになり、かつての町会のふれあいの度合いは少なくなり現在に至っております。

現在町会行事としては、小学校教育の登下校時のあいさつ指導等、交通安全運動・簸川神社の祭礼や、子供広場の催し防火防災の為の思想普及や訓練の実施、近隣町会と共催のラジオ体操・親子夏休み盆踊り大会等最近は新しい住民も参加するようになりました。柳町町会には、柳町小学校が避難所になっている関係で、防災防火が当町会の最大の課題であります。2011年の3.11の時のような混乱のないように、準備しなければなりません。地域の中心である礪川活動センターの建て替えが決定され、街の安心安全の暮らし達成に多いに希望を持っております。



簸川神社例大祭町会役員・婦人部

■ 歴代会長

初代 小林 英夫 (昭和24年～)
二代 保坂 勝造 (昭和37年～)
三代 山田 泰資 (昭和42年～)
四代 保坂 勝造 (昭和49年～)
五代 早川 一雄 (昭和53年～)

代行 佐々木 総吉 (昭和60年～)
六代 萩原 繁三 (昭和61年～)
七代 川崎 英次 (平成5年～)
八代 小林 由雄 (平成11年～)
現会長 大澤 宏平 (平成18年～)

町会のあゆみ

「白山通りの拡幅で、3分の1の町並みが減少したが、マンション等も増えて、町の様相も変わりつつある。町名の改称は、昭和30年1月に『柳町中央町会』となった。」
(30年のあゆみ 抜粋)

年号も、平成に変わり平成25年を迎えます。その間平成14年～平成17年は、町内各所で高層マンション建設の為の土地、家屋の買収が激しさを増し町内の住民の方たちは一時移転、又は新天地にて生活の場を求める方など様々です。当然のことながら、町内活動は衰退し昭和から平成10年頃までの勢いは影を薄めてしまいましたが、平成21年頃には建築ブームも収まり、一時移転されていた町内会員や商店も戻り、少しずつですが町並みが賑やかになってきました。

当町会の年間行事としては、春・秋の交通安全運動・礪川マラソン・町会連合ラジオ体操・朝顔ほおずき市・夏休み親子盆踊り大会など、町会合同事業のほか、町内新年会・忘年会・日帰りバス旅行・募金活動・年末特別警戒など町内会の親睦・安全に対する啓発に寄与しております。平成23年の東日本大震災以後、町内の防災体制見直し、食料の備蓄も鋭意検討中です。平成24年の第46回総会では、新たに災害時特

別積立金を計上し、万一に備えております。

近年はマンション居住の方々の参加も増え、新年の餅つき大会・『ふれあい祭』と称した子供中心のゲーム大会などを催すことができるようになりつつあります。2年に一度の簸川神社の祭礼は、残念ながら人員不足のため、平成14年の祭礼を最後に開催されないまま現在に至っておりますが、平成26年の簸川神社祭礼には、神輿巡行を執り行う計画も進めております。今後これらの町内活動を通じて地域コミュニティに寄与し、昔ながらの活気のある明るい、住み良い安全な町、柳町中央町会でありたいと思います。



白山通りから商店街入口を望む

■ 歴代会長

〈柳町三和会、再発足〉(昭和30年4月)

初代 林 文助(昭和30年～)

二代 中尾 末吉(昭和35年～)

三代 霜鳥徳次郎(昭和49年～)

四代 石原 正作(昭和55年～)

五代 中尾 泰一(平成16年～)

六代 市村 一雄(平成16年～)

七代 ニノ宮一夫(平成22年～)

町会のあゆみ

明治の末に発足した柳盛会が大正初年に三和会と改称、同8年には今我々の見る神輿を新調した。戦後GHQの命令で表向きは解散したが、柳講→柳町協力会の名で存続し、昭和30年4月に本来の名で再発した。なお、名称は柳町の24・26・29の三つの番地の集まりであることを表す。

この土地は明治維新前は武家地であったがその後一時水田となり、明治20年頃には再び宅地となり、40年頃白山通りが新設され次いで電車も開通した。その後表通

りは商店街、奥は町工場や住居の多い状態で関東大震災も戦火も免れて来た。昭和39年、白山通りを境に小石川1と西片1に二分され、のち白山通りの大拡幅で西片側の戸数が半減し、更に平成12年11月の再開業によるエルアージュ小石川の出現で町内は大きく変貌したが町内会の絆は今も健在である。

平成15年、84年経った大神輿を修理し、20年には山車の修理も行なった。防災防犯関係では、20年4月に防犯パトロール隊が発足し、24年春の防災コンクールでは2位入賞を果たした。厚生方面では旅行や芸術鑑賞のほか19年から播磨坂で観桜会を始め、22年5月からは月例昼食会のニコニコ会が加わり、24年12月、10年ぶりに会員名簿を発行した。また柳町小学校を会場にラジオ体操・親子盆踊りを近隣町会と共催し、朝顔ほおずき市・サマーフェスティバル・礪川マラソンにも協力している。



町会旅行 忍野ベリーランド(平成25年7月)



防災コンクール3位入賞(平成25年3月)



山車と子供みこし(平成24年9月)

■ 歴代会長

- 初代 加藤 清作 (昭和28年～)
- 二代 田中清太郎 (昭和36年～)
- 三代 中島 信明 (昭和60年～)
- 四代 船田 幸男 (平成5年～)
- 五代 上田 武司 (平成17年～)

町会のあゆみ

現八千代町町会の前身は、寛文3年(1663)に伝通院境内の清掃を奉仕とする人達16名が、徳川家より世襲の権利と、土地家屋を拝領したのが始まりであり、江戸時代は「掃除丁」と称したが、明治2年「掃除町」と改め、明治5年には築地馬場(小石川馬場)と云う土地と合併して、「小石川伝通院掃除町」と改称された。

大正14年「掃除町」から「八千代町」に改称された。改称の理由は諸説あり定かではないが、国歌「君が代」から八千代をとって「八千代町」と命名したとも言われている。

終戦後「八千代会」が設立され、その後昭和28年現在の「八千代町町会」が結成され現在に至っている。

昭和39年8月1日住居表示が法令により改正され住居表示から八千代町と云う名称

が消えたが、町会名は昔のまま現在も「八千代町」を使用している。

現在、八千代町町会は「安心で安全でより住みよい町会」をモットーに町会長を中心に全役員が町会運営に努力しております。

平成18年には発起人10名により八千代町青年部を正式に立ち上げ平成24年現在19名に拡大町会親睦会、祭典等に重要な役割を占めるに至りました。

以下年間の主な活動状況は、各種会合の開催、慶事行事、防災・防犯活動、交通安全活動、青少年対策活動への協力、レクリエーション等福利厚生活動、祭典の実施、募金活動、資源回収リサイクル活動、児童公園管理活動、盆踊り・ラジオ体操・各行政機関・渉外団体との連絡・協調等積極的に活動しております。



平成26年秋季例大祭



八千代町神輿

■ 歴代会長

初代 小泉 輝章 (昭和27年～)
二代 北川作次郎 (昭和29年～)
三代 山内 吉雄 (昭和30年～)
四代 小島 金次 (昭和47年～)

五代 戸波 順 (昭和57年～)
六代 堀内 實 (平成2年～)
七代 原 武久 (平成21年～)

町会のあゆみ

戸崎町町会は、小石川植物園の南に隣接し、高台の住宅地域と低地の商工地域に分かれ、かつては、共同印刷を中心とした印刷製品業者が密集し活気を呈していた。しかし、昨今の紙文化の衰退で町内も様変わりし住宅地帯に変貌してきている。又、75歳以上の人口が310名となり、高齢社会が現実のものとなりつつある。

■ 祭礼

当町会は、簸川神社の氏子町会で隔年に大祭が執行され、子供神輿、山車が繰出されるが、四年に一度は大神輿が渡御し盛大を極める。

■ 町会員を対象とするレクリエーション
毎年、何らかの行事を行っているが、歳末に町民融和のふれあい餅つき大会が是照院境内で行われ、ついた餅は皆に配給し楽しんでいる。

■ 防犯交通に関する行事

特に、春秋の交通安全運動には、全町会役員が総出動し協力している。

■ 防火、防災、防犯に関する行事

この行事については、初代会長以来活発な運動を展開しており、防災訓練については、町内を対象として11の地区に分け、全町民参加を目標に、初期防火訓練の徹底を期し、路地裏浸透作戦を行っている。その他、礪川地区町連、小石川地区町連、文京区総合訓練等の各種防災訓練にも積極的に参加協力している。特に、防火防犯の高張提灯を町内7か所に設置し安心、安全の街づくりに好評を博している。

■ ラジオ体操

7月下旬から8月上旬にかけて町会主催で念速寺境内にて2週間程行っている。

■ 盆踊り

隣接五町会共催で、8月下旬に2日間行っている。

以上の諸行事の外、数多くの行事を全町会員、役員一丸となって活発に行っている。



簸川神社御祭禮 平成24年9月8日～9日

■ 歴代会長

初代 大熊 整 (昭和25年～)
二代 田辺 三郎 (昭和51年～)
三代 大橋 耕作 (昭和54年～)
四代 佐藤 義久 (昭和59年～)

五代 佐藤 忠司 (平成10年～ 会長代行期間11ヶ月)
六代 境入 眞致 (平成16年～)
七代 金子 幸廣 (平成20年～)
八代 山岸 芳雄 (平成26年～)

町会のあゆみ

小石川3丁目（一部4丁目にかかる）にある南戸崎町は、町の中央にある小石川無量院を中心に古くから門前町として開け栄えてきた町と思われます。小石川無量院は開山慶長19年と記され、江戸時代からの記録にも残る寺院です。

南戸崎町会は、昭和25年4月、大和会（現戸崎町会）から分離する形で誕生しました。共に簸川神社を氏神とし、祭での協力体制を維持し続け、昭和31年に、2年ごとの大祭に神輿の渡御を行い、費用は都度均等に分担することを正式に決定。現在も互いに協力しあう関係が続いています。

町は第2次大戦下、昭和20年5月25日の空襲による火災に見舞われました。戦後近隣地区と同様に、製本・印刷業の町として発展し、住宅・工場・商店が共存する下町らしさを備えた町となっていました。

バブル期以降は都心の地価高騰により、工場の地方移転や大型マンションの建設などが進み、我が町の表情も時代と共に変わりつつあります。治安と教育が高水準の都心のオア



簸川神社大祭神酒所前にて御神輿

シス・文京区は住宅需要が更に増え、新規住民の参入も多く、新しいコミュニティが必要になってきていると思います。

まだ始まったばかりですが、当町会ではインターネット上に『南戸崎町会』のFacebookページを立ち上げました。活動や町会からの連絡や会員同志の情報交換や親睦などが図ってゆけたらと考えております。ぜひ、ご覧になって下さい。

歴代会長は、町会の人々の和を広めて親睦を深め明るい町造りに努める、を町会役員の目的として、特に防災と青少年の育成に力を注いできました。今後も安心して住み心地の良い町であるように、町会としてお役に立っていきたく思っております。

そして、多くの会員の皆さんにも気軽にご参加いただける町会であるようにと願っております。



2012年7月ハワイアンズへバスの旅

指ヶ谷町会

● 昭和20年9月結成

■ 歴代会長

初代 浦部 武夫 (昭和20年～)
二代 高柳 進 (昭和49年～)
三代 市川 勇次 (昭和56年～)
四代 清水 巖 (昭和60年～)

五代 菊地 栄造 (平成3年～)
六代 豊島 賢一 (平成7年～)
七代 小澤 一雄 (平成17年～)
八代 豊島 弘江 (平成23年～)

町会のあゆみ

町名は徳川三代将軍家光が鷹狩りに来た折りに「あの谷も遠からず人家が出来るであろう」と指し示されたことに由来します。

現在の当町会の活動は、歳旦祭に始まりラジオ体操会・白山神社のご祭礼・レクリエーション・防火防災訓練の実施・餅つき大会・歳末夜警等、年間を通して地域のコミュニティづくりに積極的に取り組み、安全安心の町づくりに貢献すべく努力しております。また、その努力の成果として、数々の団体表彰・個人表彰も頂くことができました。中でも、毎年実施される文京区（小石川地区）の防災コンクールにおいて3連覇の偉業も成し遂げました。これもひとえに地域防災の重要性を認識し、積極的に訓練を励行した成果と言えましょう。

「指ヶ谷」の町は、昔からお互いが支え

あう人情豊かな住みよい町です。この伝統はこれからも引継いでいかれることと思います。決して現状に満足せず、創立100周年に向って、更に絆や連帯感を深めるべく、邁進していく所存です。



～90周年の輝かしい歴史と絆を大切に更なる発展を目指す～
(平成23年2月6日 後樂園飯店にて 町会役員スタッフ一同)



「重厚にして華麗」な町内大神輿が白山通りを渡御



“備えあれば憂いなし” 町会主催防災訓練に積極的に参加
(指ヶ谷小学校校庭にて)

■ 歴代会長

- 初代 齊藤喜一郎（昭和24年～）
二代 橋高 智雄（昭和43年～）
三代 野上 年定（平成14年～）
四代 橋高 智光（平成18年～）

町会のあゆみ

この町会は、蓮華寺坂、薬師坂、浄心寺坂の三坂が落ち合う白山下にあり、礪川町会連合会に所属する。隣接には指ヶ谷町会、京華通り自治会、白山町会、丸山新町町会、上御殿町会がある。白山通りを挟んで、四丁目側は住宅地域であり、店舗の数は少ない。一丁目側は「白山下商店会（仲通り商店街）」を擁する商業地域であり、その奥に住宅地域も控えている。この道路兩岸の異なった地域住民の交流と融和を図り、平和で明るく清潔な住みよい町作りをモットーにして、公平で公正な予算編成によって、地域防災、防犯、文化交流、地域福祉、商店街の活性化、地域住民の健康増進等に、役員、住民が力を合わせて町会活動を運営している。

町会の主な年中行事は、正月の白山神社初詣会を皮切りにして、町民による新年会、

成人祝い、新入学児童に入学祝品の贈呈、春秋の交通安全運動、防犯防火パトロール、毎月1回の有価ゴミ収集、夏休み親子ラジオ体操会、9月の白山神社お祭礼と町内盆踊り大会、敬老の日に祝品の贈呈、10月の文化部バス旅行、指ヶ谷小学校避難所運営訓練、街角防災30訓練、年末及び寒中に行う夜警、冬の炊き出し訓練、年3回の共同募金活動、6月の白山神社境内の文京あじさいまつりに協力、町内女性部による福祉奉仕活動、等々である。

町内西側の蓮華寺坂のわきには、日蓮宗蓮華寺がある。山岡鉄舟の山岡家先祖代々の墓、元文部大臣森戸辰男氏の墓、清水次郎長伝で一世を風靡した浪曲師広沢虎造師の墓等もあり、境内には文京区保護樹木指定の、樹齢300年を超えた大銀杏が天を衝き、町内の名所となっている。



防災訓練



ラジオ体操

■ 歴代会長

初代	赤池	一	(昭和24年～)
二代	緒方	聖雄	(昭和45年～)
三代	小山	衛	(昭和53年～)
四代	緒方	聖雄	(昭和60年～)
五代	福島	忠義	(平成6年～)
六代	町田	博夫	(平成14年～)
七代	太田	康夫	会長代行(平成26年～)

町会のあゆみ

白山町会は、白山坂(薬師坂)を挟んで、中腹から東西に広がる地に位置し、往時より東側の八百屋お七の墓のある円乗寺、西側の浄土宗心光寺の門前町として発展してきた。町内に都営三田線の白山駅があり、朝夕の通勤通学時には文字通りのラッシュとなり、町会は小なりといえども内容は豊富で、町内の繁栄も白山下唯一のものと自負している。

町会の年間行事としては、町民をあげての新年初詣から始まり、成人の日。新入学児童には祝い品を贈り、小学生以下には五月の節句にも祝い品を贈呈している。年二回の町会のレクリエーション。敬老祝い。春秋の交通安全運動。防犯防火運動。歳末の夜警には特に力を入れ、各種募金活動等、町をあげての行事協力は、地域の他町会との連携を保ちながらも、ひと味違った努力

を積んでいる。白山下の繁栄は、白山町会からと町民一丸となって邁進している。



白山坂(薬師坂) 全景



浄土宗心光寺



円乗寺にある八百屋お七の墓

■ 歴代会長

- 初代 川辺 次平 (昭和28年～)
- 二代 清水 貞雄 (昭和43年～)
- 三代 寺田 勝 (昭和58年～)
- 四代 齋藤 勝夫 (平成2年～)
- 五代 古屋 正貴 (平成12年～)
- 六代 綿貫 栄雄 (平成16年～)
- 七代 大野聡一郎 (平成24年～)※副会長

自治会のあゆみ

昭和20年代においては、川端自治会と称し、町会と商店会を兼ねた地域活動を行っていたが、戦災と強制疎開のため大半の住民が四散してしまった。終戦後24、5年頃から商店や住宅ができ、商店会と町会に類する団体活動が始まった。

昭和28年、白山神社祭礼協賛のため、商店会が中心となって子供神輿の製作をきっかけに町会が正式に発足して、川辺治平氏が初代会長に就任した。

名称については、大正時代から隣接地に存在していた京華学園の磯江理事長及び肥田理事等と懇談の上、「京華通り自治会」と命名した。

約200世帯ほどの町会であるが、協調と連帯をモットーに次のような活動をしている。

- 一、厚生と福祉に関する事業
- 一、交通安全対策に関する事業
- 一、青少年問題対策についての事業
- 一、防犯及び防火に関する事業
- 一、保健衛生全般に関する事業



越中おわら



防災訓練



白山神社祭礼

■ 歴代会長

- 初代 白木 亀吉 (昭和28年～)
二代 白木徳之助 (昭和35年～)
三代 平井 宥慶 (平成11年～)

町会のあゆみ

町名は、この町会通りの西側を住居表示変更以前「(小石川) 仲町」といったところからきた。今の三中裏門部分、道路端から40m弱は仲町の土地である。体育館沿いも仲町であった。大塚にも仲町があったので、こちらには「小石川」をつける。

住居表示改正前、仲町通り東側は小石川町と表した。小石川町は後樂園に面する通りまで含まれたが、仲町通り沿いの住民の生活範囲は、そちらとは全く切れていて、こちら仲町なので、町会組織設立と共に、仲睦会となり、今に至る。即ち当町は、関東武蔵野台地が東に伸びた先端の一つ小石川台の突端に位置し、後樂園の地面とは相当の高低差があるところに存在する。高い土地にあるのだ。それがここまで小石川町と表したのは、考えるに、水道橋の角から仲町に接するここまで占めていた水戸屋敷が明治政府に没収されて以後、ここには砲兵工廠が造られ、分割されず一区画を保った。これを一つに表記して小石川町としたのではないか。お蔭で、ここ後樂園から遠地の高台に住む人々の住所も小石川町と

なった。

その砲兵工廠の裏門が、仲町通りに面して有ったという。今の第五方面本部の入口のところだ。それで人の出入りが激しく、仲町通り入口に公衆便所があるのはその所為である。この砲兵工廠に、明治37年？大暴発事故があった。そのとき、常泉院・西岸寺は、大勢の死傷者を収容し、救済したという。交通網の発展とともに輸送に便あるところへ移動して、小倉に行ったと聞く。

何で「仲町」とついたか、水戸黄門さまが諸国行脚から還り、このあたりにまで着いたとき、ここは何処か、と問うに、中頃です、と応えたものがあって、仲町と付いた、こんな面白い(ひと口)話が古老によって語られてきた。そういうわけで、当町会は決して大きくないが、徳川御三家の水戸殿と縁故ある由緒正しい町会、として、これからも誇りを以て維持していく所存である。



町会中央部から北側



町会中央部から南側

春日一丁目大門町会

● 昭和45年5月結成

■ 歴代会長

初代 佐藤 光信 (昭和45年～)
二代 吉川 晴通 (昭和53年～)
三代 岡田 守弘 (平成元年～)
四代 吉川 晴通 (平成2年～)
五代 鈴木 一郎 (平成13年～)
六代 小手森政喜 (平成17年～)

七代 金井 均 (平成19年～)
八代 吉倉 秀子 (平成21年～)
九代 柳沼 愛子 (平成22年～)
十代 實方 正子 (平成24年～)
十一代 白石 英行 (平成26年～)

町会のあゆみ

春日大門町会は、東は中央大学（春日一丁目仲睦会）・西に安藤坂（旧大門町会）・南に区立第三中学校（道和町会）・北に富坂警察（表町会）に面し、約120mの区道を挟んで構成された、最も小さな町会です。

古くは、小石川村で伝通院前白壁町（白壁造りの家屋が多く、現在の当町会）と陸尺町（伝通院役夫の住居）と称し、慶長七年（1602年）伝通院寺領町屋となりました。明治2年（1869年）には、両町が合併し、伝通院の大門に近いことから、「大門町」と称しました。

その後、大門町（現在の表町に合併）と春日一丁目大門町会に分かれ、地域力を高めて参りました。

1990年代から、ご商売をされていた方々の閉店と共に、新たな共同住宅ができたものの、少子高齢化が進みました。しかし近

年では、更新された住居での年少人口が増えると共に、町会に参加される次世代の方も増え、廃止された各事業に対し、新たな親睦事業の提案・構築がなされているところです。

また「第三中学校避難所」に隣接する町会として、地域力を高め、「安心で安全」で「愛着あふれる町」であるように、会員みなさんで楽しみながら、歩んでいます。



防災コンクールでは、優勝狙っています



緑多い町の為に、玄関先清掃をしています



町会の情報発信局「掲示板」を新設しました

■ 歴代会長

初代 荒井 直吉（昭和34年～）
二代 内野栄五郎（昭和38年～）
三代 谷口栄太郎（昭和41年～）

四代 秋葉 邦雄（昭和50年～）
五代 荒井 秀雄（平成2年～）
六代 大森 道昭（平成24年～）

町会のあゆみ

■ 史跡・文化

道和町会は安藤坂の中央部の両側及び巻石通りの金剛寺坂入口から後楽園付近までの両側住人で春日1.2丁目後楽1丁目及び水道1丁目で構成されています。安藤坂は坂の西側に安藤飛騨守の上屋敷があったことから名づけられました。巻石通りは内堀の大名屋敷及び本町、町屋に給水するため、目白台下の関口大洗堰で流れをせきとめて、水位を揚げ開渠の水道で神田上水と呼ばれていました。明治の初めにこれを暗渠とし道路にしたのが巻石通りであります。

町内の東側丘陵に1184年、源頼朝の発願によるという北野神社があります。安藤坂の中央部の東側に萩の舎の旧跡があります。この萩の舎の門人には梨本宮妃や樋口一葉がおり、塾主である下田歌子の歌碑が北野神社にあります。

■ 町会の活動

当町会には商店等はほとんどなく、地味な町会で、個別住宅の住人も少なくアパート、マンションの住民が大多数です。

独自の活動

納涼大会 8月の終わりに近い土曜日に北野神社の境内に模擬店を設営しポップコーン、かき氷、ビール、焼き鳥、焼きそばなどを販売しています。

バス日帰り旅行 大型バスで2年に1度、会員を対象に5月中旬の日曜日に行っています。

お祭り バス旅行を行わない年に子供の山車を町内で引き回します。

北野神社行事のお手伝い

12月31日 お焚き上げ
1月1日 新年参賀
2月中旬 献梅祭

礪川地域活動センター関連のお手伝い

朝顔・ほおずき市
礪川マラソン大会
サマーファミリーフェスティバル

富坂警察署・小石川消防署への協力

富坂防犯協会の会員・小石川防火防災協会の会員として警察署・消防署ご指導のもと、町会会員の防犯、交通安全、夜警、防災防火などの知識普及に役立っています。

震災災害への備え

東日本大震災は想定外の被害が発生した。町会の防災対策としては自助・共助の取り組みが必要と考えております。

道和町会は第3中学校が避難場所として指定されており、町会員も避難場所の区民防災役員として活動しております。この避難場所は町会員だけでなく、近隣住民、帰宅困難者に対して数日間の避難場所を提供することとなっております。

その他の活動

小学校入学児童のお祝い品、敬老のお祝い品の贈呈。夏休みラジオ体操、春及び秋の交通安全運動、年末の夜警など町会員福祉と親睦を図っています。



納涼大会

■ 歴代会長

- 初代 染谷 盛一（昭和29年～）
- 二代 小笠原政和（昭和55年～）
- 三代 寺崎作治郎（平成4年～）
- 四代 荒川 誠一（平成12年～）
- 五代 武澤 房吉（平成21年～）
- 六代 組橋 孝幸（平成24年～）
- 七代 篠崎紘治郎（平成26年～）

町会のあゆみ

後楽町会の町会員数は約800世帯と東京ドーム、ドームホテル、トヨタ自動車、五洋建設、住友不動産、鹿島道路、富士通ビジネス、23区特別競馬組合等の多数の大手企業も町会員に加入して下さり多方面の支援と協力を頂いて町会活動の一助になっております。

日本赤十字社の共同募金をはじめ歳末助け合い運動募金、みどりの募金、文社協助け合い募金等各種募金活動を後楽町婦人部を中心に積極的に行っており大きな成果を上げ募金活動に貢献しています。

町会員相互の親睦を図る為、毎年夏休み最後の休日に、町会主催の日帰りレクリエーションを貸し切りバス3～4台で約150名の町会員の参加を得て実施しています。因みに平成24年8月のレクリエーションは東日本大震災の被害地でもある福島県を応援する意味合いも含め、いわき市のスパリ

ゾートハワイアンズでプールで泳いだり、フラダンスを見たり、買い物したりして楽しい1日を過ごして親睦を図りました。

後楽町会として行政等の支援を受けず町会独自の費用負担で防犯活動の一環として町内5か所の主要の場所に富坂警察署生活安全課の指導と協力により防犯カメラの設置、作動させ犯罪発生を抑止と事件、事故等の調査に役立て町会員の安心、安全に寄与しております。



「夏のレクリエーション」役員集合写真（平成24年8月26日）



防犯カメラ作動始め式（平成23年7月22日）



第二後樂園アパート

● 平成元年結成

■ 歴代会長

初代 丸岡（平成元年～）
二代 岡部（平成2年～）
三代 石掛（平成3年～）
四代 吉田（平成4年～）
五代 梶田（平成5年～）
六代 岡部（平成6年～）
七代 渡辺（平成8年～）

八代 梶田（平成9年～）
九代 三上（平成10年～）
十代 岡部（平成11年～）
十一代 芝田（平成12年～）
十二代 梶田（平成13年～）
十三代 岡部（平成15年～）
十四代 石掛（平成21年～）

自治会のあゆみ

旧小石川自治会は平成元年に第二後樂園アパートとしてリニューアルしました。

昔は空地が多くありましたが、現在は南に東京ドーム、北に後樂園駅、東にラクーア、北東にシビックセンターという、後樂園のど真ん中にあるイメージです。

昔を知らない人はなんでこのような場所にアパートがあるのが不思議に思えるでしょう、実は戦後この地は多くの人に住んでいました。東京オリンピックを境に移転を余儀なくされ、残った建物が第二後樂園アパートとして現存しているのです。

昭和30年頃には、今のシビックセンターの場所は空地で盆踊りの大会などをやっていた記憶があります。

この地域の子供は礪川小学校から文京三中に進学するのが普通で、貧しかったけれど頑張れば豊かになれるような希望がある時代でした。

会長は2年満期で交代し協力してきましたが、居住者が変わりいつの間にか自治会の参加者も決まった顔ぶれになり、長い間岡部さんが会長を引き受けてくれました。その後、岡部さんは高齢のため引退し、現在は石掛が会長を務めています。

自治会として消防訓練などをしていましたが、今年は伝通院の朝顔・ほおずき市に参加して活動の一步を踏み出しました。

皆様が健康で楽しく毎日を過ごし、長生きできたら幸いです。



アパート近くの後楽学園（幼稚園）昭和30年頃



メトロエムもラクーアもない頃のアパートから見た後樂園遊園地の景色

春日礫川町会

都営後楽園第一アパート 東京都文京区春日1-15-9

● 昭和35年4月結成

■ 歴代会長

- 初代 太田 音吉 (昭和35年～)
- 二代 檜山 勉 (昭和53年～)
- 三代 大沼 文雄 (昭和57年～)
- 四代 檜山 勉 (昭和61年～)
- 五代 瀬尾 マサ (平成11年～)
- 六代 杉内キミヨ (平成21年～)
- 七代 佐伯 領二 (平成23年～)

町会のあゆみ

昭和33年(1958)建設、昭和35年『春日礫川町会』は発足しました。戦後の住宅事情に伴い建てられた木造一戸建の集合住宅に変えての鉄筋コンクリート6階建。1階の8店舗を除き、32戸の2Kアパートです。昭和29年、地下鉄丸ノ内線池袋～御茶ノ水間が開通し、昭和39年礫川公園が造成されました。春日通り富坂下交差点角の素晴らしい住環境です。

平成11年、文京シビックセンター竣工、都営地下鉄大江戸線と三田線、営団地下鉄

南北線の開通と、文京区の中心的位置となりました。

築後54年を経、老朽化と住人の高齢化など、現在は居住22世帯の小さな町会です。



眼下に礫川公園を、その右下が当アパート。遠望中央やや左に富士山を眺める。左に広がるのは小石川後楽園。(文京シビックセンター25F展望ラウンジより)



春日通り[春日局之像]辺りより、当アパートと文京シビックセンター

本郷一丁目アパート自治会

● 昭和49年結成

■ 歴代会長

会長 平 稔 (昭和49年～)

副会長 春田 戌

自治会のあゆみ

昭和49年に交通局ビル完成の折、99世帯が入居して同年に自治会として発足。55年より春田、松井両氏が副会長となる。近隣の住民の皆様との和をモットーとして組織された。



水道橋方面



春日・小石川・本郷をつなぐ春日町交差点



アパート隣の緑地からシビックセンターと講道館を望む



真砂坂から本郷方面を望む

